

## 近畿病院図書室協議会第110回研修会（事例・研究報告会）

研修部

日時：2006年3月24日（金）10：00～12：00

場所：京都テルサ

プログラム：

1. 患者図書館／患者情報室を目指して  
ー公開シンポジウム「これからの医療情報を考える！」開催報告ー  
演者：武庫川女子大学 杉本節子氏  
共同演者：中村雅子氏、中馬良子氏
2. 病院図書館の業務分析（第一報）  
演者：星ヶ丘厚生年金病院 中村友紀氏  
共同演者：寺澤裕子氏、山室真知子氏
3. 長野県での病院図書館ネットワーク活動  
演者：長野赤十字病院 前澤好広氏  
共同演者：中村雅子氏、佐々木絹江氏、  
小林紀子氏
4. 精神医学・心理学系専門図書館システム新規構築について  
ー情報入機能とシステムの検討ー  
演者：兵庫県こころのケアセンター 有園  
博子氏  
共同演者：田中友恵氏
5. 図書館業務でのより効率のよいメール管理  
ー迷惑メール対策を中心にー  
演者：大阪府立母子保健総合医療センター  
中村雅子氏

参加者数：40名（会員34名、会員外6名）

今回の事例・研究報告会には5題の演題が寄せられた。うち第一席、第二席は2005年度に開始された研究助成制度を利用した研究成果の報告であった。

第一席は仮想患者図書館研究班からの報告

で、大阪市立大学創造都市研究科が主催した公開シンポジウムの経過と報告書作成の一端を報告していただいた。研究班としての直接の活動報告ではないが、当協議会会員も多数参加した公開シンポジウム「これからの医療情報を考える！」の開催経過がよくわかり、今後の研究班の方向性を示唆する内容であったことが理解できた。

第二席は病院図書館の業務分析についての報告であった。これは、2004年度の実例・研究報告会での中村氏の報告に端を発した研究活動である。今回は当協議会の年次統計調査にデータを提出した図書館を対象に、さらなるアンケートを試みた。その結果、病院図書館の存在意義や図書館業務に対する管理者の理解を促すには、業務報告書が有効な手段ではないかとのことであったが、なかなか実行できていないという現状も報告された。

第三席では、第108回研修会の会場となった長野赤十字病院を中心とした、長野県におけるネットワーク活動についての現状と問題点が報告された。長野県でのネットワークの樹立には地理的条件もあり、さまざまな厳しい現実があるが、大学図書館の参画を得たことで、今後の活動に期待できるようになったとのことである。第108回研修会がネットワーク活動推進の契機となったことは、喜ばしい限りである。

第四席は研究者の立場からの報告で、図書館システムの構築にかかわったことから、病院図書館、司書の役割について理解あるお言葉をいただいた。一般的に、病院図書館に専門知識を有した司書の存在が不可欠であるという認識は

なかなか得られていないが、研究現場からの実感のこもった「司書が必要である」との発言は、われわれにとっても大きな励ましとなった。その期待にこたえるためにも、スキルアップに励む必要があり、図書館規模の大小にかかわらずわれわれは司書の実力が問われる現場にいるということを、深く心に刻まなければならないと感じた。

第五席では、最近とみに増加している迷惑メール対策についてであった。迷惑メールの駆除には時間と手間をとられ、対応に苦慮してい

る図書館も多いことであろう。簡単な予防策があればすぐにでも試したいところであるが、残念ながらなかなか有効な手段はなく、できたとしても忍耐と努力が必要とのことであった。それでも日々積み重ねて行うことで迷惑メール回避の効果はあるようなので、今回の事例を参考に実施するのも一考ではないだろうか。

今回の事例・研究報告の中には継続研究が二席ある。2006年度でのさらなる研究報告に期待したい。

(文責：林 伴子/社会保険神戸中央病院)